

「MACF 礼拝説教要旨」

2020.06.07

「信仰の法則」

ローマの信徒への手紙 3 章

3:26 このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。

3:27 では、人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。どんな法則によってか。行いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によってです。

3:28 なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。

3:29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもないのですか。そうです。異邦人の神でもあります。

3:30 実に、神は唯一だからです。この神は、割礼のある者を信仰のゆえに義とし、割礼のない者をも信仰によって義としてくださるのです。

3:31 それでは、わたしたちは信仰によって、律法を無にするのか。決してそうではない。むしろ、律法を確立するのです。

+++++

パウロは私たちへの神の救いは「イエスキリストへの信仰」によってもたらされることを語りました。

「キリストの贖い」のおかげで「神の恵みにより」「無償」で、救いが届くのだとパウロは説いたのです。

1) 神の側の一方的な犠牲と愛による

この救いの為の犠牲はすべて「神の側」で処理されました。神の側で代価を支払い、神の側で救いの方法を考え、しかも、すべての人に等しく救いが届くように「無償」で提供されたのです。

ユダヤ人たちの中には「神の救いは私たち選民だけにもたらされる特権であり、我々だけが味わえる祝福だ」と考えていた人たちがたくさんいたようです。

しかも、自分たちの努力もあって、それらの祝福が手には入ったのだと考える人たちもいました。

パウロはそれを否定しています。

それらは「行いの法則」によってもたらされたものではなく、「信仰の法則」によるものだとパウロは語るのです。

これは、おそらくユダヤ人にとっては聞き捨てできない内容立ったと思います。

それでは自分たちが必死になって守ってきた律法には意味がなかったのか、神の掟を守ることは無駄なのかという反論があったはずですが。

2) 律法には意義があるが、救いをもたらすことはできない

パウロは、「神がユダヤ人に律法を託したことには大きな意義があり、意味があることを教えています。それによって、神の御性質や神の正義の基準がわかるからです。しかも、それはユダヤ人だけのためではなく、すべての異邦人のためにも有益なことだということです。

それによって異邦人も神がどういう存在なのか気づくチャンスが与えられるからです。

そして、パウロは重大な発言をしています。「神はユダヤ人だけの神でしょうか、異邦人の神でもあります。実に神は唯一だからです。」という言葉です。

これはユダヤ人の中には理解できた言葉だと思いますが、彼らの心には大きな壁があって、神はユダヤ人を救い、他の民族は滅ぼされても仕方がないという思いがあったのです。

とにかく律法も持たず、知らず、それゆえ守れないような異邦人は神に愛される資格などないのだと彼らは考えていたのです。

3) 神はユダヤ人にも異邦人にも神である

パウロは、「神はユダヤ人の神であると同時に異邦人にとっても神なのだ」と語り、神はユダヤ人を信仰によって救ってくださるのと同じように異邦人をも信仰によって救ってくださるのだと語るのです。

ユダヤ人が律法を守り抜くことができなかった責めと罰をキリストが十字架で担ってくださったのと同じように、律法を知らず、神を知らず、罪の中にいた異邦人のすべての罪、すべての律法違反の処罰を神はキリストの十字架の贖いによって精算してくださったのだと力説しています。

神は割礼のあるもの、すなわちユダヤ人も、割礼のないもの、すなわち異邦人もキリストへの信仰によって義としてくださるのだということです。

それは律法を無にすることではなく、むしろ、キリストによって律法の要請が完全に満たされるのだということなのです。

「私たちの神は、異邦人にとっても神だ」という発言は、今の日本の状況から言えば「私たちの神は仏教徒の方々にとっても神なのだ」というのと同じような響きをもって聞こえただろうと思います。

私たちは、神の威厳、神の影響、神の存在が、そういう偉大な、すべての命を包み込むほどの領域をもっていると感じているのでしょうか。

4) 偉大な神、偉大にして無制限、無償の神の愛、救いはすべての人々に及ぶ

極端なことを言えば、彼らがどんな宗教につながってようと、ふと、キリストの愛とその救いに心を開き、気づきのなかで「主イエス様、私を憐れんでください」と心をイエス様に向け、信頼したら、救いはそこに届くのです。

その救いをより深く理解するために聖書の学びや礼拝はとても大切なことですが、救いは「行い」「環境」「家柄」「教育」に関係なく、イエス様への信仰によって、誰にでも、もたらされる神の恵みであり、神の愛なのです。

私たちがあれこれ壁を作って、それを妨げてしまうことのないように気をつけなければなりません。

そういう愛の神だからこそ、私に救いが届き、あなたにも救いが届いたのです。

ハレルヤ。

+++

OCC8Fでの礼拝は6月中はまだ休止です。

少しずつ準備が進んでいます。

7月半ばからは開催できればと願っています。

再開については、改めて、また、連絡をさせていただきます。
